

## 青南まつりに寄せて 園長 新山裕之



「青南まつり」について、昔のことを調べてみました・・・

青南幼稚園の30周年、40周年の記念誌を見てみると、平成4年に第1回青南まつりを開催したと記録があります。あまり詳しい記載がないのですが、始まった頃の青南まつりは、どうやら保護者の皆さん主催の保育終了後の夕涼み会のような会だったようです。

私が赴任した平成29年からの3年間の青南まつりは・・・

遊戯室では年長児がグループで作ったお店屋さんを、保護者の皆さんが担当するブースが園庭に3～4個あり、地域の未就園児を招いての大きなイベントでした。まつりの前には、浴衣姿の盆踊りの先生に来ていただき、子どもたちも保護者の皆さんも「炭坑節」を教えてくださいました。当日も保護者の有志が太鼓を叩き、かえでの木の周りをみんなで踊って、祭りの雰囲気盛り上げていました。



一昨年は、まつり委員の皆さんが奮起して、おみこしを作ってくれて、子どもたちが担いでさらに雰囲気を盛り上げてくれました。



ワニワニパニックやヨーヨー釣り、など子どもたちが楽しめるコーナーを保護者の皆さんが担当してくれました。「ぽっきり座」は、毎年、大型絵本などの読み聞かせをしてきていました。

地域の未就園児にたくさん来ていただいていたので、まだ赤ちゃんだった頃に、親子でこの青南まつりに来て、楽しんだという方、それがきっかけで青南幼稚園に入園してくれた方もたくさんいらっしゃるでしょう。

## 昨年、小さなおまつりを開催

昨年は、幼稚園自体が3か月間臨時休園、6月からの再開と分散登園という状況で、それまでのような青南まつりは全く考えられませんでした。それでも、7月末に園内で身の丈に合った小さなおまつりを行いました。その様子は、昨年の小さなコラムその23「みちくさ いたずら こどものじかん」をご覧ください。

## 今年は、新しい形の青南まつり！

コロナ禍での今年の子どもたちの取り組みは、おおむね昨年と同じです。

幼稚園では、教師が環境を整え、雰囲気づくりをしていくことでいろいろなごっこ遊びが始まります。特に、お客さんと呼ぶことでより遊びが楽しくなるのが、お店屋さんや踊りなどです。子どもたちが自分たちで始めた遊びをより本物らしく作りたい、お客さんにも来てもらいたいと思うタイミングがあります。

今回は、そのような上向きな気持ちを、「おまつり」と絡めて、年長組がみんなで相談し、年少・年中児を招待しようという流れで進んでいます。今回は、まつり委員の皆さんと幼稚園が、間接的に並行して創り上げる新しい形の青南まつりとなっています。

各家庭で提灯を作ってもらったのがその第一歩でした。提灯を9日に持って来てもらったのは、年長児のごっこ遊びの取り組みを「まつり」に方向付ける大事なきっかけにしたかったからなのです。

盆踊りを踊ったり、みんなの提灯が飾られたりして、まつりの雰囲気が徐々に高まっています。ご協力ありがとうございました。年長児たちは、自分たちが始めたごっこ遊びを今、青南まつりというちょっと大きなイベントに仕上げているところです。

どの学年も、まだ入園・進級して間もなく、ようやく園生活に慣れ始めたところです。この時期の実態に合った、身の丈に合った取り組み方で進めています。年少・年中児はお客さんとして参加することで、たくさん刺激をもらって、その後の遊びに活かしていくことでしょう。年長児は、小さい子たちに喜んでもらって、自信を付ける機会となることでしょう。

保護者の皆さんに直接参加していただくことはできませんが、特設サイトやがくぷりなどICT環境を駆使して、新しい形の青南まつりがすでに始まっています。当日は、すてきな土産も用意してくれています。まつりの後も長く楽しめる工夫もしてくれています。どうぞお楽しみに…！

役員の皆さん、まつり委員の皆さん、保護者の皆さん、本当にありがとうございます。引き続きよろしく申し上げます。

